

第2学年3組 特別活動（学級活動）学習指導案

場所 2年3組教室

指導者 T1 内田 武瑠

T2 上月 直美

1 題材名 わくわくやさいカードを作ろう！～やさいのよさを知って、すすんで食べよう～

本学級の子どもたちは、食べることが好きで、給食の時間には進んでおかわりする姿がある。また、1年生のときと比べて残食の量が減ってきており、自ら進んで食べようとする姿も見られる。しかし、食に関する事前調査では、苦手な食べ物として、野菜の名前を回答している子がクラスの半数を占め、野菜へ苦手意識をもつ子どもが多いことが明らかになった。そのような子どもたちに、野菜のよさについて自分と友達の考えを比較しながら交流していき、野菜への見方が広がることで、これからの中の食生活の中に野菜を進んで取り入れてほしいと願う。

そこで、本実践では「野菜をもっと食べたくなる」という思いになる子どもの姿を目指し、「わくわく野菜カード」を作成する活動を設定する。このカードには一人一人の思う野菜のよさをまとめ、友達同士で交流したり、栄養教諭から給食の工夫を聞いたりする中で野菜への捉えが更新されていき、自分の野菜カードにその思いを加えていけるようにする。完成したわくわく野菜カードは、給食掲示板に「2の3わくわく野菜カード」として置くことで、野菜のよさを学校全体に伝えていけるようにする。この活動を通して、野菜への見方が広がり、関心が高まっていくことで、野菜を意欲的に食べようとしていく学びを生み出していくたい。

2 題材について

(1) 本題材では、野菜のよさについて考える。野菜のよさの視点は、子どもと一緒に決めていく、育て方、様子、成長、料理、栄養と設定した。食生活に目を向け、自ら進んで野菜を食べていくには、野菜への見方の広がりが必要だと考える。2年生にできる実践の形として「わくわく野菜カード」を作成することで、実践へ向かう力の育成をねらう。これまで「やさいとなかよしになろう」の学習では、野菜の働きを栄養教諭が説明し、完食カード等を活用するような実践が行われてきた。しかし、そのような実践では、野菜の働きは理解できてもそれを食生活とつなげ、継続的に自ら野菜を意欲的に食べていく姿には至らないこともあった。

そこで、一人一人が生活科で育てている野菜について「わくわく野菜カード」とし、吹き出しに上記の視点に基づいて、野菜のよさについての印象を書いていく。その上で、友達同士で紹介し合い、新たな見方に気付き、カードに吹き出しが加わっていくことを期待している。その際に栄養教諭から給食の工夫について整理していくことで、カードを見直して、野菜のよさを伝えられるようにしていきたい。そうすることで、様々な野菜に興味をもつことにもつながり、おいしく食べるための工夫について自ら選び考え、給食と家庭で実践していく学びとなるようにする。

- (2) 第2学年の生活科において、野菜の栽培活動を行ったり「グリンピースのさやむき」や「とうもろこしの皮むき」の体験活動を行ったりすることで、野菜と触れ合いながら野菜への関心が高まっている。本題材で野菜のよさについて学ぶことは、第3学年の特別活動（学級活動）「見つけよう！元気が出るごはん」の題材における食べ物の働きの学習にも生かすことができる。
- (3) 本題材に関する子どもたちの実態は次の通りである。（調査人数：36人）
- ① 全員が給食を好きと回答しており、好きなメニューには、カレー、揚げパンが多い。
 - ② 苦手な食べ物には、なす、ピーマン、ゴーヤ、トマトなどの野菜の名前がクラスの半数あった。
 - ③ 苦手な食べ物も全員が食べた方がいいと回答しており、苦手なものを食べられるようになりたい、減らしたいという思いや、何かつけたらおいしく食べられるかもという思いをもつ子もいた。

3 題材の目標

- (1) 野菜を食べることの大切さと必要性を理解できる。
- (2) 給食の工夫や友達との関わりを基に、自分のわくわく野菜カードを作成できる。
- (3) 野菜のよさを知り、自分の食生活へ積極的に取り入れていこうとしている。

4 指導計画（2時間取り扱い+モジュール）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
事前	野菜の苗を植え、栽培活動を始める。	○ 生活科の栽培活動を行う中で、事前に栽培する野菜を選んだ思いについてまとめてることで、野菜への関心が高められるようにする。	
1	1 わくわく野菜カードを作る。	○ 生活科の学習を振り返ることで、自分の育てている野菜を附属小のみんなに伝える内容を考えられるようにする。 ○ 伝えていく内容を整理した上で、教師が野菜カードを作ることを提案する。その上で栄養教諭から給食のポイントを伝えるときに作成しているもりつけ表を紹介することで、料理や栄養の視点を獲得できるようにする。 ○ 野菜カードに料理のことについての情報が足りず書くことに困っている状態を見取り、家庭へインタビューしてくるよう促す。	【知】 体の中での野菜の働きを理解することができる。 (発言・振り返り) 【主】 自分の育てている野菜について視点に沿って考えることができる。 (発言・カード・振り返り)
モジュール	わくわく野菜カードの料理の視点を書く。	○ 家庭でインタビューしてきたことや同じ野菜グループでの交流することで、野菜カードに料理名を書き足すことができるようする。	
2	2 わくわく野菜カードにおすすめの料理を書く。	○ 「オクラの野菜のおすすめのメニューをききたい」という子どもの振り返りを全体で共有することで、わくわく野菜カードが伝えたい人のことを考えて作れているか考えられるようにし、本時の見通しがもてるようする。 ○ 食感や味に着目してカードを書いている子どもを栄養教諭が価値付けした上で、給食づくりの工夫を紹介する。そうすることで、切り方の工夫にも目を向けられるようする。 ○ おすすめの料理を選ぶ際に栄養教諭から作り手側の立場の専門的な視点で調理の工夫について紹介することで、自分にとってのおすすめの料理を選ぶことができるようする。 ○ 他の野菜グループとの交流を通して、自分の野菜への見方が広がり、自分のこれから食べ方を考えることができるようする。 (本時 2 / 2)	【思・主】 給食の工夫や友達との交流を通して、野菜のよさを捉え直し、自分の野菜カードにその考えを生かそうとしている。 (発言・カード・振り返り)
事後	学習したことを実践する。	○ 生活科の栽培活動を通して、わくわく野菜カードに育て方や成長などの視点の記述が書き加わることで、野菜のよさについて食育の学習内容を深めることができるようする。	

5 本時の学習

(1) 目標

わくわく野菜カードを作る活動を通して、野菜への新たな見方が広がり、自分のカードに新たな野菜への捉えが加わることで、今後の食生活で野菜を進んで食べようとしていく。

(2) 展開

時間	学習活動	学習する子どもの思い・姿
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none">○ 附属小のみんなに伝えたいとは思っていたけれど、どんな人にカードを取ってほしいか、詳しく考えてはいなかつたな。○ 附属小のどんな人に伝えようかな。この野菜をもっと好きになって食べてほしいな。人気な野菜になってほしいから、好きって思っている人に伝えたいかな。
15	2 伝えたい相手を具体的に考えながら、カードに書く視点を考える。	<ul style="list-style-type: none">○ この料理おいしいよって書けばいいのかな。○ オクラグループの人は、オクラがねばねばでおいしいよって書いている人が多いみたい。○ トマトは食べたら甘いよってトマトの味について詳しく書いている子もいるね。味について書くのもいいね。○ 上月先生も食感や味付けの工夫しているんだね。苦手な人が多い野菜は、細かく切ってみんなが好きな味付けにして作っているんだね。○ この前、6月のもりつけ表見たけど、私が育てているなすのことは書いてなかったから、他のもりつけ表で探してみたいな。どんな料理に入っているのかな。
15	3 新たな視点を基にカードの内容に書き加える。	<ul style="list-style-type: none">○ 前の吹き出しにさらに吹き出しをつなげると、詳しくなって分かりやすい。私もたくさんの料理名を書いた吹き出しからおすすめの料理の吹き出しを書いてみよう。○ 私は、自分がおいしいと思った料理を選びました。○ わくわく野菜カードは、持って帰ったらお家の人に作るお願いするから、上月先生の話にあったように、簡単に作れる料理だったり、苦手な人でも食べやすい調理法だったりしたらしいんだな。○ みんなどんなおすすめの料理書いているのか気になるな。他の野菜グループは、どんな料理を選んで、食感とか味のこととかどんな風に書いているのかな。
10	4 本時の学習を振り返り、今後の活動への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none">○ 自分の育てている野菜の食感や味のことについても考えることができたな。苦手な人も僕の選んだおすすめ料理だときっと食べてみたいと思ってくれるといいな。○ 私は、きゅうりを育てているけど、なすが苦手だから、今日なすのグループの野菜カードを見て、食べてみたい料理を見付けました。野菜カードが完成したら持つて帰ってお家の人に作ってもらえるようにお願いしたいです。



附属小のみんなに伝える視点（育て方、様子、成長、料理、栄養）の中で、特に料理について家庭へインタビューした内容を基に書き加えてきた子どもたち。本時では、伝える相手を考えながらおすすめの料理を考えていく中で、新たな料理の視点を獲得し、野菜の捉えが更新していく姿を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 「オクラの野菜のおすすめのメニューをききたい」という振り返りを紹介し、その思いについて考えることで、伝える相手のことを考える必要があることに気付かせる。その上で、附属小のどんな人に料理を伝えたいと思っているのかを問うことで、本時の見通しをもたせ、課題を設定する。

伝えたい人のことを考えた、わくわくやさしいカードにしよう！

- 料理のことについて、どんなことを書いたら「伝えたい人」がカードを取って家で食べようと思ってくれるかを問い合わせ、カードに書く視点や工夫を考えさせる。それらについて考えることが難しい子どもがいる場合は、食感や味について書いている子どものカードを取り上げ「食感」「味」といった視点を明らかにする。
- 子どもたちから、カードに書く視点についての考えが出た上で、附属小に通う全員に向けた給食では、どのようなことに気を付けて調理しているのか、T1が栄養教諭に問う。このことをきっかけに、子どもたちから出た視点を価値付けながら「食感」「切り方」「味付け」などの視点や工夫について栄養教諭が紹介する。その際、過去のもりつけ表も紹介し、必要があれば、それを参考にしながら、それぞれの視点や工夫について書くことができるようとする。
- カードの書き方について説明する際には、子どものカードを紹介し、どの部分が書き変わったのかが分かるようにする。そうすることで、本時で新たに加わった視点や工夫が明確になるようにし、他者と比較したり、自己の変容が自覚したりできるようとする。
- おすすめの料理を選ぶのに迷っている子どもがいた場合には、全体にどのようにしておすすめの料理を選んだのかを問い合わせ、それぞれの選び方を共有する。その際、おいしさだけでなく、調理のしやすさや食べやすさという視点も明らかにするために、料理の作り手という立場からの助言として栄養教諭にも尋ねるようにする。そうすることで、おいしく食べるための調理の工夫を知ることができ、おすすめの料理を考えることができるようとする。
- 他のグループのカードへ興味をもち、見たいという思いを見取り、交流を促す場合には、教師がどんなことを確認したいのか問う。そうすることで、どのようにカードを見合い、アドバイスし合うのかを明確にした上で自由に交流し合えるようとする。
- 本時の学習を振り返ることで、本時でどのような見方ができるようになったのか、自覚できるようとする。また、振り返りを発表する際には、栄養教諭がその子どもの野菜カードを価値付けることで、本時で書き加えた視点について自覚できるようにしていく。さらに、自分の野菜以外の野菜グループのカードのよさに気付いている子を取り上げ、今後の食生活へ生かす見通しがもてるようとする。

【教材・教具】

- 野菜カード
- もりつけ表
- 学びの足跡
- 大型テレビ

【評価】

野菜カードにおすすめの料理を書き、野菜への捉えが更新され、これから食生活で野菜を食べていこうとしている。（野菜カード、発言）